

Eureka XII

六年制通信 No.29 令和6年11月29日(金)号

パンドラ

先週号で予告したギリシア神話の「パンドラの箱」ですが、その前にもう一つ『古事記』から私の好きな話を紹介します。神様が人間らしい振る舞いをするのが面白くて仕方がない、と前回書きましたが今回のもそうです。皆さん、天岩戸の伝説を知っているでしょう。あれ、弟の須佐之男命が高天原で暴れるのを最初にかばっておられたのですが、ついに頭にきて天照大神が天岩戸に隠れ大きな岩で蓋をしてしまう話ですね。引き籠ったわけです、最高神が。太陽の神が隠れたのですから世は暗闇になるわけで、困った神様たちが会議をします。出した結論が、岩戸の前でにぎやかに踊り明かすというものでした。その楽しそうな様子に天照大神も顔を出すであろう。そこを逃さず岩戸から引きずり出して、二度と入れないように入口に結界を張るという計画です。もうこれだけで十分ユーモラスなのですが、外があまりに楽しそうなので天照大神が顔を出すと大きな鏡が自分に向けられています。踊っているアメノウズメノミコトに「なぜそんなに楽しそうなのか」と聞くと「あなた様よりももっと素敵なお神様がいるのですもの」と答えます。天照大神が顔を出すと鏡映った自分の姿が目に入ります。この神のことが、何と美しい。もっとよく見ようと岩を少しどけると力持ちの神様がその岩を一気に取り除きます。そして皆で天照大神を引きずり出します。だいたいこんな話ですが面白いですね。初め神様界一の力持ちでも開けられなかったはずの岩を、女神である天照大神はあっさり開けます。力持ちすぎますね。しかもご自分のお姿をご存じなかったことになりませんが、そんなことがありますか。ちなみにその鏡が三種の神器の一つである「八咫(やた)の鏡」で、伊勢神宮内宮に現存しています。

では、パンドラです。私、この話なかなか奥が深いと思っていまして好きなのです。パンドラは真面目に発音するとパンドーラです。古典ギリシア語の固有名詞の長母音は日本語にする時、煩わしさを解消するのに短母音として処理される場合が多いのです。ソクラテスもソークラテース、プラトンもプラトーンが本来の表記です。パンドラも日本語ではこの方が定着していますね。この物語に登場するプロメテウスとエピメテウスの兄弟、それにパンドラも名前がすでに古代のギリシア人の大好きな言葉遊びが入っていて面白いのです。プロ-は「事前に」、メテウスは「知る」ですからプロメテウスは物事を事前に予見のできる神です。エピ-は「事後に」ですからエピメテウスは後で知る者という意味ですから、典型的な賢兄愚弟ですな。兄の忠告を無視して弟が失敗するのだろうと、名前からすでに予想されますね。プロメテウスは天から火を盗み人間に与えた罪でゼウスから過酷な罰を与えられますが、その前にゼ

ウスは火を持って生意気になった人類に対して「災い」を与えようと、「女」を作ります。ギリシア神話ではパンドラは史上初の女性ということになっております。男に対する「災い」＝「女」という発想ですが、こっわ。パンドラのパン-は「全て」、ドラは「贈り物」の複数形です。つまり「全ての贈り物」というわけですが、実は私、この言葉の意味を長い間誤解してしまてね。世の中には数多の贈り物がありますがその全てを詰め込んだのがパンドラである、あるいは世の中の全ての贈り物と引き換えにするだけの値打ちのあるのがパンドラという女性である、そんな風に考えていたのです。ところが『ヘシオドス全作品』（中務哲郎訳）の注釈に（「全ての神々が女にそれぞれの贈り物をしたから」ではなくて「全ての神々から人類への贈り物」と解釈する方が妥当である）とありまして、認識を新たにしました。さて、それでプロメテウスは弟にパンドラを受け取ってはいけないと注意をします。先が見えていますからね、兄は。しかし弟はパンドラと結婚し、皆さんご存じの通り、彼女が禁断の箱を開けたがために、ありとあらゆる疫病や犯罪が人間界に広まることになります。しかし箱の隅にただ一つ「希望」だけが残されていました。希望を古典ギリシア語でエルピスと言ひ、昔々Aコース（今のS）で担任をしていました時、学年通信の名前をエルピスとしていました。懐かしい。ちなみにヘシオドスの『神統記』と『仕事と日』では、箱は甕（かめ）と訳されています。それはパンドラが持ってきたものなのかどうかも、なぜ開けたのかも書かれていません。後世の人々が作ったのですね、きっと。

今週のおすすめ

・東野圭吾 『架空犯』（幻冬舎）

東野さんの最新刊です。私、おそらく東野作品は全部読んでいると思うのですが、評価としては中の中かな。ひょっとしたら、もっと厳しい評価をするファンもいるかも。だって普通の推理小説なんだもん。いや、それでいいわけですけど『容疑者Xの献身』級を期待してしまうとちょっとね…。

都議会議員と妻が殺害されます。妻の江利子は元女優。幸せそうな二人に何があったのか。犯人は自殺に見せかけようと偽装工作をした痕跡もあるのですが、すぐにばれてしまうような程度のお粗末なもので、余計に犯人像がわからなくなってしまいます。捜査一課の五代刑事が所轄のベテラン刑事山尾とバディを組んで捜査に当たりますが、今度はそのベテラン刑事が何か嘘をついているような…。捜査を続けるうちに、この夫婦には高校時代に接点があることがわかり、そのあたりを五代は綿密に調べ始めます。すると、当時江利子と交際していた同級生の男が自殺していたことがわかります。また、この男は高校時代登山部に入っていたのですが、卒業アルバムのクラブ写真には意外な人物が写っています。さて、いよいよ江利子の高校時代に何があったのが事件のカギになりそうで、五代は当時を知る人々を訪ねて回ります。もう皆さん老人になっているわけですけど、五代刑事は粘り強く少しずつ真相を明らかにしていきます。私たち読者も一緒になってその様子を楽しめますよ。

BGMは Bette Midler の *The Rose* でした…。